

平成30年 全国高等学校総合体育大会 「審判員報告」

C2 審判長

河本 眞由美

1、採点上打ち合わせた事項

(監督会議での報告事項も含む)

① 適用規則の確認

採点規則2017年版 変更規則I

女子体操競技情報27号及び高体連制定の高校適用規則を適用する。

② 採点指針の確認 (情報26号)

③ 変更規則I・情報27号については各種目で確認

④ 競技方法、練習時間について

・競技方法 4-4-3 (予選VTは1本の演技)

・練習時間

【予選】1組最大6名 (チーム4名+個人2名)

VT : 1人2本

UB : チーム3分20秒、個人2名 各50秒

BB : チーム2分、個人2名 各30秒

FX : 3分

【決勝】1組最大4名

VT : 1人2本

UB : チーム3分20秒、個人 各50秒

BB : チーム2分、個人 各30秒

FX : 2分

*チーム内に棄権者が出て人数が少なくなっても、チームに同様の時間が与えられる。

*決勝1班の最初の種目のみ5名となるので、1人分の時間が追加される。

⑤ Dスコアへの質問に対して

高体連の特別ルールに則って、その班の競技終了後10分までに書面を審判長に提出すること。また、時間に遅れた質問、Eスコアへの質問、他の所属への質問は受け付けられないという規則の確認。

⑥ 新技申請

なし

⑦ 留意する点

・音響装置の故障の場合

第1アクロラインの前 演技をやり直すことができる。

第1アクロラインの後 選手は演技を続行しなければならない。

- ・跳躍や演技を試みない場合
器具や跳躍板にふれ、D1 審判に挨拶することで0.00扱いとする。
- ・スコアの表示 DスコアのみD審判の机上に掲示する。

⑧ 選手・コーチの行動について

- ・競技中の演技台（マット上・助走路を含む）での練習はできないことの確認。
- ・「合図、かけ声、応援等でコーチが自分の選手を援助する」減点項目の確認をし演技中に選手への支持や応援と見られるかけ声拍手などは控えていただくよう監督に促した。
- ・服装に関しての確認（高体連適用規則参照）

2、採点上起こった事項とその処理

① 演技中のコーチのかけ声

演技中に選手への指示となるようなかけ声や応援と見られるかけ声、拍手をする監督がいたため口頭にて対処した。（複数件）

② UBにおいて、チームの練習時間が終了しないのに、個人の選手が練習を始めてしまった。

個人の練習時間終了後、残りの練習時間を確保した。

③ FXにおいて、

- ・演技前にフロアで宙返りをした選手がいた。
本人、監督に注意をした。
- ・フロア上に金属片のようなものが上部から落ちてきた。
フロア全体を確認し異常がなかったので続行した。

④ マークを付ける位置が腰のあたりの選手について、注意をした。

⑤ Dスコアへの質問

UB：2件 BB：5件 FX：1件

D審判に確認をとり、該当監督へ説明をした。（得点は表示通り）

⑥ 公式練習中、他県のコーチが選手についていた。

協力者IDを発行し対応した。

⑦ その他

本会場での怪我は多少見受けられたが、選手は演技を続行していた。
決勝において、監督変更の連絡がなく本部に確認した。（通過者会議がないので速報などで対応してほしい）

3、その他 特記事項・意見・感想等

審判業務全般においては、D1 審判を中心に予定していた時程から遅れることなくスムーズに採点業務を進めることができ、大きな怪我や事故もなく無事に競技を終え

ることができました。(予選においては、休憩時間に食い込むこともあり審判員・補助役員の方々には時間を見計らい休憩をとっていただくようにした)開催県の役員の皆様、補助役員の生徒の皆さんが細かな心配りや手厚いサポートをしていただいたことがスムーズな大会運営に繋がったと思っています。

今年度より、予選の競技前の練習方法が変更となりましたが特に問題はなく来年度も同様な設定でよいと思います。

演技全般を通しては、日本のトップレベルの競技会に参加する選手から競技経験の少ない選手まで幅広い層の選手が混在し、難しい採点だったと思います。2018年の採点指針は、常に美しい体線での演技とそれを基盤とした上で高い難度の技や組み合わせ点を獲得できる演技構成を高く評価するとなっています。上位の選手には、この指針に見合う高いDスコアを有し姿勢欠点のない姿勢での演技を実施しており、大変見ごたえがありました。その反面、技の角度の不足やダンス系での姿勢の不良で予定していた難度が認められなかったり、CRが取れなかったり、落下や着地の失敗も多くありました。やはり、各種目の基本となる技の習得や反復練習に重点を置いて(特に倒立の姿勢・技の終了角度・ダンス系のひねり角度や姿勢など)日々の練習に励んでいただきたいと思います。美しい立ち姿勢や表現力についてはダンス系の基礎トレーニングをしっかりと行い、個人の持つ魅力を十分に発揮できるような演技を目指してほしいと思います。

残念だったのは、監督・コーチや選手の皆さんの行動で何件か注意をしなくてはならなかったことです。指導者の皆様には今後も引き続き規則に則した行動をお願いしたいと思います。

最後に、準備段階から長期に渡り大会運営にご尽力いただいた開催地の大会役員競技役員、補助役員、関係者の皆様に感謝申し上げます。大きな怪我や事故なく終了できましたこと、誠にありがとうございました。

C 2 跳馬

D1 審判員 白川千尋

1. 採点上打ち合わせた事項

①適用規則の確認

2017年版採点規則 変更規則 I 情報27号までを適用

②採点指針の確認

情報26号跳馬採点指針「Dスコアの高い跳躍技の実施」「高さや距離を伴うダイナミックな跳躍」「着地の体勢が高く、安定した着地」をもとに、技の難易度から受ける迫力や雄大性なども加味し、ダイナミックさに欠ける跳躍は「ダイナミックさに欠け

る-0.1/0.3/0.5」を有効に使うて差をつける。

③アシスタント、セクレタリーの任務

線審：練習回数カウントの確認

境界線の踏み出し 0.1/0.3 の減点の確認

コーチからの再確認の要求に対応できるよう、すべての過失は記録しておく

セクレタリー：跳躍毎にD1 審判員による確認後、得点決定とする。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

決勝における跳躍総数166本のうち、89本(53.6%)が第2空中局面で伸身宙返り1回ひねり以上を伴う跳躍技であり、そのなかでもロンダート後転とび～後方伸身宙返り2回ひねり(D5.4)が17本(10.2%)、前転とび前方伸身宙返り1 1/2ひねり(D5.8)が2本と、高いDスコアの跳躍技に積極的に取り組んでいる姿勢がうかがわれた。しかし中には難しい技に挑んでいても転倒や低い姿勢での着地など不完全な実施もいくつか見受けられ、今後は高さや距離のあるダイナミックな跳躍と安定した着地でDスコアの高い技を完成させていくように練習を重ねてほしい。

今回も予選では1本跳躍であったが、どの班も1人2本の練習と1本の跳躍にかかる時間が極端に長くなることはなく時間的にはかなりの余裕があったことから、2本跳躍でも十分に現在のスケジュールに収まるであろうと考えられる。2本の跳躍ができる決勝では1本目は確実な跳躍・2本目には難しい技に挑戦した選手が多数いたように、2本跳べることは競技レベル向上というメリットにもなるので、ぜひ予選でも変更規則本来の形である2本跳躍の実現を前向きに検討していただきたい。

資料) 決勝で実施された主な跳躍技(跳躍総数166本中、5本以上実施された跳躍技)

跳躍番号	跳躍技	Dスコア	跳躍数(%)
2.10	前転とび～前方かかえ込み宙返り	4.0	5(3.0%)
2.20	前転とび～前方屈身宙返り	4.2	9(5.4%)
3.20	屈身ツカハラとび	3.7	22(13.2%)
3.12	かかえ込みツカハラとび1回ひねり	4.1	10(6.0%)
3.32	伸身ツカハラとび1回ひねり	4.8	19(11.4%)
4.20	ロンダート後転とび～後方屈伸宙返り	3.5	11(6.6%)
4.32	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り1回ひねり	4.6	39(23.5%)
4.33	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り1 1/2ひねり	5.0	9(5.4%)
4.34	ロンダート後転とび～後方伸身宙返り2回ひねり	5.4	17(10.2%)

1. 採点上打ち合わせた事項

- ①情報26号の「段違い平行棒」採点指針3項目を読み直し、高いDスコアの演技構成・美しい体線での実施・正確な実施など、指針に沿った演技を評価することを確認した。
- ②指針に沿わない演技には、規則集第8章の減点項目、第11章の「構成減点」「種目特有な実施減点」、そして変更規則□にある「前向きでない構成」の減点を有効に使用し、採点を行うことを確認した。
また、「短い演技」とD審判団が判断した場合、技の実施数によりEスコアの最高点が変わるため、その都度E審判団へ口頭にて伝えることを確認した。
- ③アシスタント（計時審）の任務内容と、予選・決勝で異なる試合開始前のウォーミングアップの計時方法について確認した。また、コーチからの計時減点の再確認にはすぐに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことをお願いした。

2. 採点上起こった事項とその処理

- ①試合開始前のウォーミングアップ（予選）は、チーム3分20秒のアップ後、個人のアップ（50秒×人数）であったが、チームのアップ時間が終了する前（2分）に、個人選手が練習に入ってしまった。チーム側から残り1分20秒の練習の申し出があり、D審判団から審判長へ報告をしたところ、審判長の判断において練習が許可された。選手・監督には練習方法についての確認を口頭にてお願いした。
- ②予選の際、試合開始前のウォーミングアップが昨年同様と思い、チームアップ後、チーム選手が競技を始めようとした。アップ方法の変更について説明をし、個人選手のアップ後、競技を行った。選手・監督には練習方法についての確認を口頭にてお願いした。
- ③選手の演技中、安全のために演技台に留まることがコーチに保証されているが、補助の移動の際、審判の正面で立ち止まり視界の妨げとなったケースがあった。立ち止まる際の場所について、口頭にてお願いをした。
- ④採点間に演技台（マット上）で練習を行っている選手がいたため、口頭にて注意をした。

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会、D・E難度の空中局面を伴う技や棒間の移動技、D難度の終末技に積極的に取り組む選手が多く見受けられたように思います。また、CV（組み合わせ点）を獲得でき

る組み合わせに挑戦する選手も複数いるなど、指針に沿った演技構成に向けて、各選手の努力が伺える大会だったと感じます。今後も、高いDスコアの獲得を目指すとともに、け上がり・後ろ振り上げ倒立などの基本技を大切にしたい、体線の美しい体操を目指して欲しいと強く願います。

挑戦ゆえの失敗もいくつかありましたが、失敗があっても、多くの選手が最後まであきらめず、にこやかに演技終了の挨拶ができたことは、演技者として大変素晴らしい姿勢であったと感じました。

また、規則や各大会でのルールは、監督・コーチからも選手に伝えていただいていることと思いますが、選手自身も理解したうえで、大会に臨む必要があるのではないかと思います。競技中の説明や注意は、選手の演技にも支障をきたすかもしれません。時には減点という形で対応しなくてはなりません。選手自身が気持ちよく演技をするためにも、最低限自分が出場する大会の約束事を知る努力をして欲しいと切に願います。

C2 平均台

D1 審判員 黒須真希

1. 採点上打ち合わせた事項

- ①情報 26 号の採点指針の確認
- ②採点指針をもとに理想像をもち採点をすること
- ③情報 27 号の確認
- ④入力の確認
- ⑤アシスタント業務の確認

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

平均台は全体的に、Dスコアを上げようと難度の高い技で構成し組み合わせ点をとろうと積極的に取り組んできている印象でした。今年度の採点指針でも1番最初に挙げているように、Dスコアの高い構成に積極的にチャレンジしてもらうことを重要な指針として掲げているため、前向きな演技構成を多く見られたことは大変嬉しく思いました。

課題としては、ダンス系の技の正確さと身体の姿勢に対する減点を減らしていくことだと思います。昨年の世界選手権をうけてダンス系の技はより正確で減点されない実施をしていかなければDスコアもEスコアも上げていくことはできないということがわかりましたが、その部分に関してはまだ課題が残ると感じました。

まず、技の承認については多くの選手が「1つ下の難度」「異なる技」「難度なし」と判

断されています。特に「交差輪とび」「羊とび」「横向きのジャンプ」は非常に多くの選手が予定通りの技として承認できませんでした。交差輪とびと羊とびは後ろ足が肩より低く承認できない選手が多くいました。また、横向きのジャンプが踏み切る前または踏み切る際に足または肩、腰をひねってしまったため、横向きのジャンプとは認められず、ひねりを伴わない縦向きのジャンプと判断したケースが多く見られました。予定通りの技として承認できなかったことにより構成要求がとれなかった選手もいました。構成要求に関わるとDスコアが0.5以上変わってくるので、構成を工夫して確実に要求が満たせるようにしてほしいと思います。

次に減点についてですが、ダンス系の技は一つの技に対して「身体の姿勢 0.1/0.3/0.5」「高さ 0.1/0.3」「正確さ 0.1」とあります。身体の姿勢については「開脚が不十分」「脚の曲がり」「つま先が伸びない」「特定の技での身体の姿勢の減点」という点で減点があります。演技構成の中に入っている技はすべて減点の対象になるので、どの技でどれだけ減点があるのかを理解し練習してほしいと思います。

高いDスコアの演技構成を目指しつつ減点をなくしていくということは非常に難しいことですが、選手自身が採点規則を理解し自分の演技構成と向き合い日々練習していくことでスコアは確実に上がっていくと思いますので頑張ってください。今後の活躍を期待しています。

C2 ゆか

D 1 審判員 佐原礼香

1. 採点上打ち合わせた事項

①採点指針の確認

- ・情報 26 号（ゆか）の採点指針 5 項目の確認
「高い難度点と複数の組み合わせ点が獲得できる高い D スコアの演技構成」
「姿勢欠点がなく正確なダンス系の技の実施」
美しい体線をもとに上記の 2 項目を重要視し採点する。

②E 審判団の確認事項

- ・情報 27 号で追加された内容の確認
- ・指針に沿わない演技には採点規則集第 8 章の減点項目、第 13 章の「芸術性と構成の減点」「種目特有な実施減点」、そして変更規則□にある「前向きでない構成」の減点を有効に使用し、採点を行うことを確認した。

③アシスタントジャッジの任務確認

- ・線審・計時審の任務内容を確認
(練習時間 予選：3分 決勝：2分)

コーチからの計時・ラインの減点の再確認がすぐに対応できるよう、過失はすべて記録しておくことを確認した。

2. 採点上起こった事項とその処理

特になし

3. その他特記事項・意見・感想等

今大会に出場している選手のレベルは様々であるが、採点規則 2017 年版では、ゆかの構成要求 2,3,4 はアクロラインの中で実施するルールになっているため、どのレベルの選手も構成要求と終末技加点が得られるように演技構成を工夫してきていると感じた。

高い難度点と複数の組み合わせ点が獲得できる高い D スコアの演技構成を目指している演技も多数あった。しかし、未完成な実施も多く、アクロバットの系の技に関して着地の乱れが多数見受けられ、技を行うだけではなく、安定した着地が出来るよう着地まで意識をした練習を心がけて頂きたい。

ダンス系の技は、ひねり不足や技の要求を満たさないなど不正確な実施が多数あり、難度承認が出来ず、難度が下がる技が多数あった。構成要求 1 が同一技の実施となり承認ができなかった選手も複数いたため、ダンス系の技を行う順番など、技の承認が出来なかったときのことを想定し、構成要求 1 が同一技にならないように技を取り入れて欲しい。

昨年の世界選手権からダンス系の技に関しては、正確に実施をしなければ減点が多くなる傾向にある。選手自身がどこを意識すれば良いのかを理解し、正確な実施を目指して演技の中で実施が出来るように日々丁寧に練習をして頂きたい。

またダンス系の技を行う前に調整（不必要な踏み出し）・余分な腕の振りをしてから技を行う選手が多く、減点を少しでも無くす工夫をして欲しいと強く感じた。

芸術性に関しても、ただ音楽に合わせて演技をするのではなく、選手自身が音楽も含めて自分をどう表現し、すべての観衆を魅了するような演技をアクロバット系の技やダンス系の技だけではなく、立ち姿勢から一步踏み出したときのつま先、指先まで意識された、常に美しい体線で 1 つの作品として作り上げなくてはならない。日頃から立ち姿勢や表情なども意識をして練習に取り組んで頂きたいと思う。

今大会で感じたことは、今年度から予選の練習時間が 3 分となり、選手には十分な練習時間を設けられてよかったと思うが、審判側はトイレに行く時間や休憩する時間がほとんどなく過酷な採点業務になってしまった。補助役員の生徒は班ごとに交代していたが、セクレタリーは通しで業務をしてきていたため、休憩がほとんど出来なかった。今後、少しでも負担が減るようなご配慮をいただけたら幸いです。